

七福神再考

—（その一）恵比寿考

蓮沼啓介

[要約]

本研究は恵比寿の原語である愛弥詩がアイヌ語に由来することや、そこから派生した衣比須が葡萄の色をあらわす戎染に使用された結果、古い愛弥詩に取って変わったことを明らかにして、愛弥詩とは日本列島の原住民である縄文人であることを解き明かしたものである。

1. 蝦夷と毛人

- 毛人とは何か。毛人国の住人のことである。
- 毛人国はどこにある？ 毛の国とは上下の毛野国のことである。
- 蘇我蝦夷は蘇我毛人とも書く。
- なぜ毛の国なのか。毛皮を衣として常用する人々の国だから。
- 毛人は古記によれば夷人の一種である。夷人雑類という律令用語を解説する箇所では「本土」に居れば夷人であるが「華夏」に交じって住めば雑類になると解説がある。肥人・阿麻彌人・隼人などが別の例である。（賦役令集解辺遠国条所引古記）

2. 恵比寿と蝦夷

- 恵比寿は古くは養老説に衣比須（積日本紀秘訓四）とある。
- 蝦夷はエミシ（日本書紀私記甲本のうち白川本）またエビス（流布本）のちにエゾ。
- エミシは愛弥詩（神武紀歌謡十一）また蘇我蝦夷
- もとはアイヌ語の emichiew という（大野晋）

3. 倭武王の上奏文

- 「東征毛人五十五国」（宋書夷蕃伝）
- 毛人とは何者か
- 五十五国とはどこ何処か。「尾張」「参河」以下「能等」「羽咋」など（「国造本紀」）。

4. 齊明紀は難解である

- 難所の一。三重出がある。分散記事もある。
- 難所之二。靺婁羅人とは何者か。

5. 三重出とは何なのか

- 三重出の事例
- 肅慎討伐は三年に亘っている。

- (斉明四年) 是歳・阿倍・比羅夫討肅慎獻生羆二羆皮七十枚。
- (斉明五年三月是月条) 或本云阿倍・比羅夫與肅慎戰而歸。獻虜四十九人。
- (斉明六年) 三月、遣阿倍臣・率船師二百艘伐肅慎国。

6. 異種紀年法

- 現行の紀年法とは異なる紀年法がかって存在していた。
- 一年の後れがある紀年法があった。
- 二年の先走りがある紀年法があった。
- 詳しくは友田吉之助『日本書紀成立の研究』風間書房、参照

7. 阿倍比羅夫の北方遠征

- 遠征は何回行われたのか。
- 本居宣長の学説。一回だけ。
- 坂本太郎。二回。蝦夷平定と肅慎討伐は別の遠征である。
- 津田左右吉。三回。斉明四年・五年・六年と年々行われた。
別の三回説。瀧川政次郎と高橋富雄。四年と五年は蝦夷平定。斉明六年は肅慎討伐。

8. 三重出の別例

- 続守言の倭国移送は三重出している。
- (斉明七年)「日本世記云十一月福信所獲唐人続守言等至筑紫」
- (斉明七年紀) 或本云、辛酉年・・・庚申年(斉明六年)既云福信獻唐俘。
- (天智称制二年二月) 是月佐平福信上送唐俘続守言等。

9. 重出は異種紀年法の仕業である。

- | | | | |
|----------|----------|----------|---------|
| | 通常暦では、 | 顛項暦では、 | 則天暦では、 |
| • 斉明四年は、 | 戊午年であるが、 | 丁巳年であるし、 | 丙辰年である。 |
| • 斉明五年は、 | 己未年であるが、 | 戊午年であるし、 | 丁巳年である。 |
| • 斉明六年は、 | 庚申年であるが、 | 己未年であるし、 | 戊午年である。 |
- 則天暦の戊午年を通常暦の戊午年と取り違えると斉明四年の出来事に変換される。顛項暦の己未年を通常暦の己未年と取り違えると斉明五年の出来事に変換される。

10. 異種紀年法の正体

- 顛項暦が残存していた。
- 顛項暦は秦の始皇帝が定めた四分暦である。
- 則天暦の登場。武則天は則天暦を制作した。

11. 靺鞨羅人とは何者か

- 吐火羅はどこにある？
- トカラ列島である。(丸山二郎)

- 西域のトカラである。(松本清張・伊藤義教)
- ドヴァラヴァテイである。(井上光貞)

12. 達阿とは何者か

- トカラ商人である。(松本清張)
- ダーライである。(伊藤義教・蓮沼啓介)

13. 葡萄は何色か

- 葡萄染めとは何色なのか。
- 山葡萄の古名が手がかりになる。
- 古名はつるかづらの実であろう。蔓葛である。
- 葡萄葛の実。依毘染の原料になってつるかづらはえびかづらに名が変わった。
- 「蒲萄謂青色鳩染是也」(衣服令集解服色条古記)
「謂蒲萄者紫色之最淺者也」(同義解)

14. 愛弥詩から衣比須へ

- 衣弥詩から衣比須へ発音と用法が変わった。
- なぜ急に用法が変わったのか。衣弥詩はなぜ廃れたのか。
- 葡萄染めが流行ったから。
- 葡萄染めは依毘染めである。戎染めである。

15. えびの意味変化

- えびは海老であり、生き物であるし、自然の恵みである。
- えびすという単語の登場により、えびの意味に変化が生じた。
- えびは葡萄であり、品物であるし、都市の恵みである。
- 依毘染の紙はエキゾチックな魅力に溢れている。
- 戎女たちは素晴らしい。西域から来た異邦人である歌姫たちは魅惑的。

16. 津軽海峡は大河か

「船到大河側。於是渡島蝦夷一千余屯聚海畔、向河而営」(斉明六年紀三月条)

- 渡島の蝦夷と道奥の蝦夷を分つ「大河」とは何のことか。
- そんな大河はどこにも無い。
- これは津軽海峡のことである。
- Poro=大きい、pet=川(水の流れ)。poro pet は海流のことである。弊賂弁嶋とは海流の島であり、奥尻島のことである。

17. 弊賂弁嶋はどこにある？

- 「復於弊賂弁嶋」
- 弊賂弁は poro pet である。幌別である。ただし大河ではなくて大きな潮という意味である。

海流の島という意味の言葉である。

- 弊路弁は海流の島であり、具体的には奥尻島のことである。津軽の沖合から北上して神威岬に達するピロと呼ばれる大潮＝海流がある。
- 別説：樺太である。大河のある島といえば樺太になる（白鳥庫吉説）。

18. 肅慎とは何なのか

- 蝦夷＝エミシではない部族である。
- 奥尻島に前線基地を設けている。
- 樺太に棲息する部族である疑いが濃い。
- 恐らくは山丹人である。ひ熊の皮を集めて売り物にしている。

19. 問ひ菟とはなにか

- 塗毘菟を問ひ菟と訓んでいる。
- 日本書紀の編者は毘を清音のひ（甲）と訓じる。
- 古事記や万葉集では毘は濁音のび（甲）である。
- 原資料では跳び菟の意味で使われたと推定される。

20. 跳び菟は倭語か

- 跳び菟は明らかに倭語である。うさぎ跳び。
- 問ひ菟の菟穂名とは跳び菟という土地の穂名（人名）である。
- 穂も名（菜？）も倭語である。
- 菟穂名は道奥の蝦夷の一人である。道奥の蝦夷は倭語を話す倭人である。（アイヌ語にも通じている）。

21. 愛弥詩とは何者か

- 愛弥詩とは縄文人のことである。
- 日本列島の原住民である。
- 道奥の蝦夷は倭人である。
- 渡島の蝦夷はアイヌ人である。

22. 恵比寿がみとは

- 恵比寿神とは縄文人の生活様式を神々しいと見立て神と祭ったものである。
- 奈良時代に西域から新しい戎女が到来した。西域渡来の貴重な品々を神々しいと見て神と崇めたものが新しい衣比須である。
- 自然の恵みと都市の恵みをお宝として祭る。これが恵比寿信仰である。

参考文献

- 友田吉之助（1969）『日本書紀成立の研究』風間書房。
- 蓮沼 啓介（2024）「那の津の潮風」神戸法学雑誌 74 巻 2 号（九月号）掲載予定。